

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190800126		
法人名	(株)メデカジャパン		
事業所名	越谷西ケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県 越谷市 南荻島565-1		
自己評価作成日	平成22年8月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.konyo-saitama.net/kaigosin/infomationPublic.do?LCD=1190800126&amp;SCD=">http://www.konyo-saitama.net/kaigosin/infomationPublic.do?LCD=1190800126&amp;SCD=</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成22年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のなかで認知症症状のある方をケアしゆつたりと楽しく自由に「あたりまえの暮らし」をサポートいたしております。職員がみな温かく個々の生活を楽しくして頂ける様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の基本理念である「私たちは高齢化社会で果たす役割の重大性を自覚し、明るく元気ですこやかなヒューマンライフを支えます」を基に、施設長を含め職員が全力で利用者の生活を支援している。職員は「家族と親戚に囲まれて、最期の時を迎えていく利用者の人生に一瞬でも係りを持たせていただいている」という真摯の気持ちと利用者の尊厳を念頭において、常に寄り添いの姿勢を怠らない。さらに利用者と共に共有している日々の時間の一瞬、一瞬を大切にすることで「最後の外出、最後の食事になるかもしれない…」といった思いを込めて、利用者のケアを実践している。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の作成を行い、地域交流の努力を行っている。	事業所に理念を掲示するとともに、会議のたびに全職員が持つ手帳にある理念を読み合わせている。日々の運営において、その都度理念に立ち返ることでお互いに確認し、励ましあいながらケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校との交流会(定期)地域施設、店舗の利用を行っている。	近隣の小学校から4年生の生涯学習における福祉教育の一環として、月1回の交流の申し出があった。普段、接点の少ない世代同士の交流なので利用者はとても歓迎している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会において、認知症の病理理解等の説明を行い、地域行事の参加などについて話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告として、利用者状況や行事の報告と今後の取り組みについて話し合いをしている。	2ヶ月に1回開催し、グループホームや認知症についての理解を深めたり、利用者に適した外出先の情報を提供してもらっている。会議終了後、家族や地域の人々に議事録と次回の案内を送っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種報告の実施。困難事例の相談等を行っている。	市主催の研修会の案内情報が頻繁に送られてくる。月1回、介護相談員が訪れ、利用者と一緒に積極的に交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修・勉強会をおこない正しい理解、認識を深めてもらえるよう努力している。施錠については必要最低限に止めるよう努めている。	安全上の観点から玄関は施錠し、エレベーターは職員見守りの中、使用してもらっている。「身体拘束委員会」を設置し、資料を作る等情報を共有し、職員全体で身体拘束の廃止に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、身体拘束同様研修を行い正しい理解を深めてもらっている。各職員、疑わしいことがあった場合随時報告を頂くこととなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人研修生の受け入れを行った。成年後見人制度については、掲示板に掲示し利用しやすい工夫を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートの実施と運営推進委員会等での発表をおこなっている。	家族の要望と共に事業所の指針として、利用者の緊急時に備えて、24時間体制で入院受け入れ可能な医療機関との連携が出来るように計画を進めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議、グループホーム会議を毎月行い、自由な意見の機会を設けており、業務改善に向けての取り組みを行っている。	各ユニット会議、全体会議において職員の意見を聞いている。職員は夜間の緊急時の医療体制の充実を希望しており、事業所も利用者の安心安全のために医療機関との連携計画を進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有期雇用の方には契約更改制度による給与の見直しと、正社員には年一度の考課にて給与の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職者は1カ月のトレーニング期間を設け実施している。また、各スキルに合わせた社内研修と外部研修への参加の促しを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修、支社の各委員会を通じ交流や情報交換の場を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の際、詳細を伺う様にしている。また、入居後も普通の会話の中から、ご本人のお気持ちを伺うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの際には、ご見学と施設の説明をしサービス内容についてご相談させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に不安を覚える場合は同建物内のショートステイをまずご利用頂くこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内での家事作業等、利用者・職員で共同し出来る範囲、無理ない程度に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等何かご家族にもご参加出来ることがあれば、ご参加頂いている。ご来訪時には、日常の様子を伝えるとともに援助方法について相談を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人知人ご近所の方が訪ねてきた際には、積極的に受入れを行っている。また、以前の自宅近くの馴染みの場所にお出掛けすることもある。	近隣に住んでいた利用者が多い為、馴染みの場所にも気軽に出掛けている。友人知人も多く訪ねてくる。利用者は年賀状や暑中見舞いを書いて、馴染みの人との交流を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット会議等で、利用者同士の関係性について話し合い、お互いの良好な関係構築が図れるよう支援の方策について検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設、病院に移られる際は、スムーズに移行できるよう情報提供や相談を行っている。また、退去後に職員が面会することもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実態調査の際、生活歴や現状の様子を把握し馴染みで好みの生活の実現を目指し支援している。意思の疎通が困難な利用者に対しては、以前の考え方を家族から伺い本人本位に検討している。	利用者の様子を日々よく観察し、希望や意向を把握するように努めている。職員の「気づき」を全員で共有し、利用者の思いや意向をより深く理解し、一人ひとりに寄り添ったケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の際、入居後もご本人やご家族から伺うようにし、集めた情報をもとにカンファレンス等にてサービスの方向を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の経過記録と温度表等を記録し、カンファレンスにおいて職員間の情報を出し合い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月々のケースカンファレンスや、モニタリングに即して介護計画の作成を行っている。	主治医からそれぞれの利用者の「日常的に気をつけるポイント」を伺い、月1回のカンファレンスに於いて介護計画を微調整し、その時の状態に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月々のケースカンファレンスにて取り上げ情報の共有と対応法の統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別レク、少人数レク等個別のニーズを反映したサービスの提供を増やしていけるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域施設の利用、地域行事の参加等を増やせるよう取り組みを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月3回の往診(内科)月2回の訪問歯科にて健康管理を行っている。医師とご家族・職員の相談に応じてもらっている。	月3回の往診受診と月2回の訪問歯科受診を行っている。外部受診では家族に代わって職員が同行することもある。看護師が常駐しているので服薬管理等、充実した健康管理が実践されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに正看護師の配置があり、日々の健康状態のチェックや処置を行っている。医療機関との連携やご家族との相談に応じている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が随時見舞に伺いご本人の状態把握に努め、MSW等病院関係者との連携を図りながら、退院時指導、退院日程の調整を行っている。看護サマリー、診療情報提供書の提供を依頼し日常の対応について検討を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状は対象者おらず、行ってはいないが、社内研修等で職員研修を実施している。今後重度化や終末期の体制作りを整えていく方針である。	近い将来、体制を整えて取り組んでいきたいと考えている。医師、利用者、家族が主体となり、事業所はそれをサポートする体制が会社としての基本姿勢である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内のマニュアルに沿って対応を行うように指導している。また急変時対応の書籍等を用意してある。今後応急処置の研修等を行いたいと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定のマニュアル避難訓練の実施を行っている。	避難訓練は消防署の協力により、訓練の想定を変えたり、レベルアップを図る工夫を実施している。又、事業所の希望に応じて訓練を実施している。	地域との連携を深めて信頼関係を構築し、非常時にも協力を得る事ができたら安心である。夜間想定訓練等、回数を重ねて体制を強化することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しては敬愛の念を持った言葉遣い態度を心掛けている。プライバシーに触れるような事柄での声掛けについては、場所やタイミングに留意し行うようにしている。	利用者と親しくなりつつも、言葉遣いは敬語で接している。一人ひとりへの声かけも静かにさり気なく行うようにしている。又、利用者の居室では入口のドアを閉めたり、のれんを下ろす等、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話のなかで、ニーズの把握に努めている。また、自己選択、自己決定しやすいような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間やお食事時間は利用者のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は鏡の前での整容を促している。またその日の気分、好みの服装をしてもらうよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意なことを活かし、協力をしてもらっている作業を終えた後は必ず労いの声掛けを行いご本人の達成感、満足感を得られ、役割や次の参加に繋げるよう心掛けている。	朝夕の食事を調理から配膳まで一緒に行っている。管理栄養士によるメニューには定評があり、家族も一緒に昼食を楽しむこともある。食材も利用者と一緒に買いに行く。又、2ヶ月に1度の外食も楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	社内で栄養士が作成した献立を使用しバランスの良いお食事を提供している。個人の好みや形態食に対応している。水分摂取に関しては、チェック表を使用し水分量の管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導のもと、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表にて把握し極力おむつ等を使用せず、自然にトイレで排泄が行えるよう支援している。	排泄チェック表を基にトイレ誘導を行っている。基本的にトイレ排泄の自立を支援し、状況に応じてポータブルトイレも使用している。処理物を目に触れないようにする等の配慮もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保のための工夫と適度な運動を行って頂くことによる自然な排便の促しを行っている。医療機関と相談しながら、適宜便秘薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康上の支障がなく、ご本人の希望があれば毎日でも入浴頂いている。好みにて入浴剤を使用しゆったりとご自分のペースで楽しんで頂いている。希望時間は夕方に集中している。	利用者の希望をふまえながら毎日入浴を行っている。利用者の時間帯の希望にも対応している。バラの湯やゆず湯などの入浴剤を使用し、楽しい時間を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一人ひとりのペースに応じ自由に休んで頂いている。不眠の方には、入床を無理強せず好きな場所でゆっくり過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が分かりやすいようケースファイルにお薬の説明が綴じてあり各自が確認しやすいよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に役割楽しみを持って頂ける様に支援している。嗜好品に関しては、心身の健康上支障がない限り楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自分から、外出したいという要望は少ないがなるべくニーズを引き出し、外出の機会を楽しんで頂けるよう支援している。	年1回、車で2時間ほどの県外へ出かけている。自然公園の中にある博物館見学を楽しむ等、その都度家族の参加も募っている。おしゃれをして市民ホールへ歌舞伎の公演に出かけ、3時間もの間、熱心に観劇したこともある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常のお買い物にて、ご自分で商品を選びお支払頂けるようにしている。能力によっては、ご家族と相談の上お金の所持を検討する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話はご本人の状況により使用出来る。暑中見舞い、年賀状を送って頂くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアは生活感と季節感を大切にした装飾を心掛けている。また職員は慌ただししい動き大きな声や物音を立てないよう心掛けている。	窓には障子戸を使用し、室内を明るくしている。リビングの一角に「畳敷きに座布団」のスペースを設けて、居室だけでなく共有空間でもゆったり過ごしてもらえるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自、フロアでの自分の居場所を持っており気の合った利用者同士で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時やその後もご本人の希望や好みに合った馴染みの品の持参を頂くよう、ご家族に促している。	エアコン、クローゼット、チェストは備品である。利用者の希望でベッドか布団かを選択できる。馴染みのものや好みのものを自由に持ち込んでもらい、その人らしく居心地の良い生活を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、お手洗い等ご本人に分かりやすい工夫をしている。各利用者迷うことなく自由に移動している。		